



インパクト
コンソーシアム

第 8 回運営委員会 資料

2026年6月11日

事務局

1. 開会

(承認事項)

2. 総会決議案 (別紙参照)

【10分】

(報告事項)

3. 今期成果及び来期計画

【各10分 (計70分)】

- ◆ コンソーシアム全体 (事務局)
- ◆ 分科会 (座長・副座長)
- ◆ 国際的な議論との連携・海外への発信 (グローバルアドバイザーパネル)
- ◆ インパクト投資の認知・理解の更なる向上に向けた勉強会 (オーガナイズングデスク)

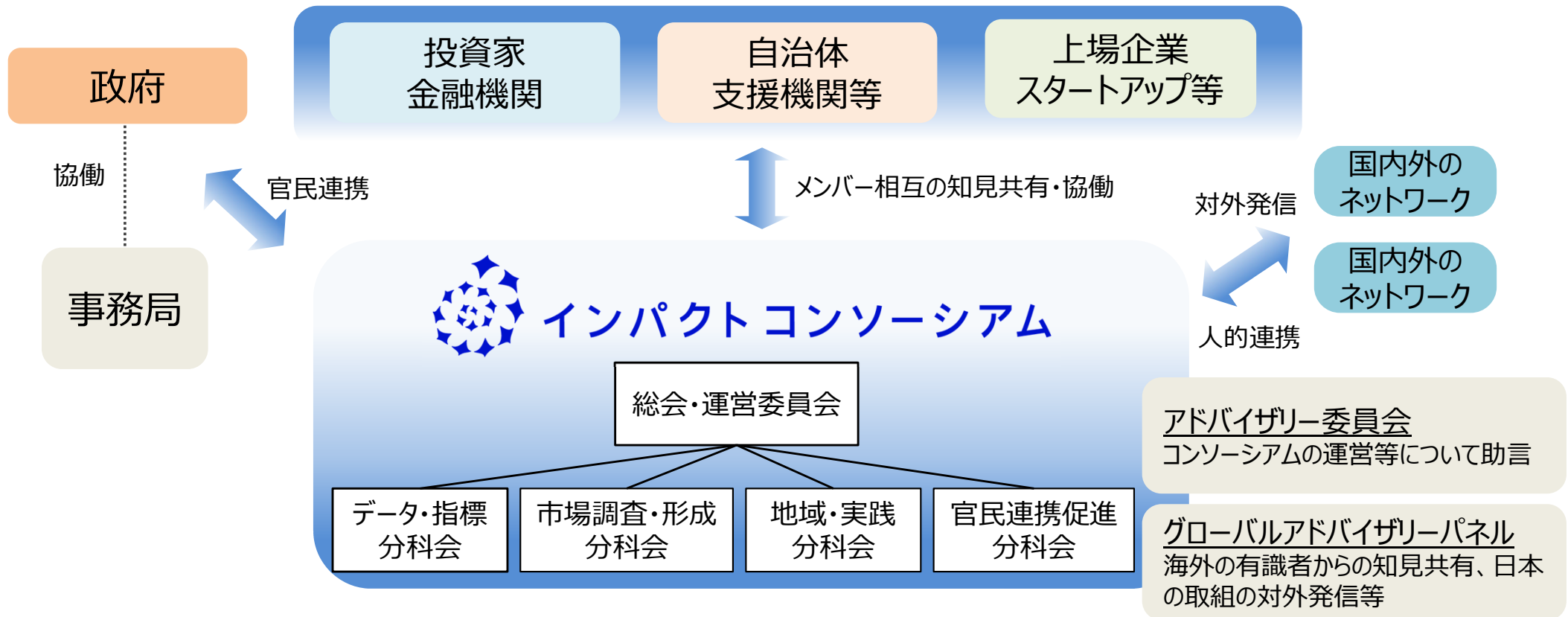
4. 意見交換

【40分】

5. 閉会

インパクトコンソーシアム概要

- インパクト実現を図る経済・金融の多様な取組を支援し、**インパクトの創出を図る投融資を有力な手法・市場として確立し、事業を推進**していくため、**投資家・金融機関、企業、NPO、自治体等の幅広い関係者が協働・対話を図る場**として、23年11月、官民連携の「**インパクトコンソーシアム**」を設置（2026年5月末で計472法人等が参画）。
- 運営については、官民連携の場として政府から支援を行いつつ、参加者の自主的な課題設定・議論を旨とし、投資指標や事例、対話・支援手法等の産金間の実践上の知見・課題の収集・発信を中心としつつ、インパクト実現の取組支援につながる幅広い事項に係る議論を行う。また、必要に応じ、政策発信を含む対外メッセージの発信等を検討していく。
- 各分科会において、**投資時に活用できる指標・データの整備、投資手法やインパクト評価を企業価値向上につなげる企業戦略のあり方、地域における官民連携の促進やインパクトを考慮した事業評価の視点等**について、市場関係者の多様性と自主性に留意しつつ、議論を積み上げる。



(参考) コンソーシアムについて

- インパクト実現を図る経済・金融の多様な取組を支援し、インパクトの創出を図る投融資を有力な手法・市場として確立し、事業を推進していくため、投資家・金融機関、企業、NPO、自治体等の幅広い関係者が協働・対話を図る場として、23年11月、官民連携の「インパクトコンソーシアム」を設置。
- 運営については、官民連携の場として政府から支援を行いつつ、参加者の自主的な課題設定・議論を旨とし、投資指標や事例、対話・支援手法等の産金間の実践上の知見・課題の収集・発信を中心としつつ、インパクト実現の取組支援につながる幅広い事項に係る議論を行う。また、必要に応じ、政策発信を含む対外メッセージの発信等を検討していく。

会長

- 高崎経済大学 学長 水口 剛

副会長

- GSG Impact JAPAN 委員長 渋澤 健
- 日本経済団体連合会 専務理事 長谷川 知子
- 全国銀行協会 企画委員長 黒澤 立也^{※1}

運営委員

- 日本経済団体連合会 本部長 正木 義久
- 経済同友会 執行役 宮崎 喜久代
- 日本商工会議所 企画調査部長 山内 清行
- インパクトスタートアップ協会 代表理事 米良 はるか
- GSG Impact JAPAN事務局SIIF専務理事 青柳 光昌
- スタートアップ都市推進協議会 副会長 高島 宗一郎
- みずほフィナンシャルグループ 執行役員 池田 周平^{※2}
- 横浜銀行 代表取締役副頭取 小野寺 伸夫
- 第一生命保険 常務執行役員 重本 和之
- 大和証券 常務執行役員 木地 佳彦
- 日本ベンチャーキャピタル協会 会長 田島 聡一
- 日本政策投資銀行 執行役員経営企画部長 成清 正和
- りそなアセットマネジメント 常務執行役員 松原 稔

※1 協会の年次体制変更に伴い、全国銀行協会 企画委員長 上野 義明氏から交代

※2 協会の年次体制変更に伴い、三菱UFJ銀行 執行役員 井口 直孝氏から交代

(参考) コンソーシアムの体制 (1/2)

有識者等によりアドバイス等を受ける機構として、それぞれ以下のような目的で、「アドバイザリー委員会」、「グローバルアドバイザリーパネル」、「オーガナイズングデスク」の3つを設置し、メンバー間及び対外機関等との円滑かつ実効的な議論を進める。

総会

- 事業方針と運営の基本的事項を決定
- 役員（会長・副会長）の選任

運営委員会

- 総会日程、分科会の設置・調整・進捗確認
- その他運営事項の決定

アドバイザリー委員会

コンソーシアムの運営等に関する助言

グローバルアドバイザリーパネル

海外の有識者からの知見共有、日本の取組の対外発信等

オーガナイズングデスク

分科会等に対し、グローバルな専門的知見に基づくアドバイスを提供し、関係者の意見収集を踏まえた多様な目線で議論を喚起

分科会

- 会員は各分科会への参加が可能。
- 効果的な議論推進のため、集中的に議論を行う「ディスカッションメンバー」等を設定。

1. データ・指標

2. 市場調査・形成

3. 地域・実践

4. 官民連携促進

事務局

- 国が支援を行いつつ、各機能を委託（会議運営、イベント運営、ホームページ作成等）

(参考) コンソーシアムの体制 (2/2)

※敬称略・五十音順

アドバイザー委員会

- 様々な専門分野の有識者によるコンソーシアムの運営等に関する助言を行う。

委員長：安間 匡明 PwC Japan合同会社 スペシャルアドバイザー

グローバルアドバイザーパネル

- グローバルな実務動向について知見を得つつ、本邦における活動の方向性について幅広い議論を行う。海外の機関等を都度若干名程度アドホックで招聘(オンラインを含む)し、本邦関係者と議論を行う。

パネルに招聘する団体等の例：国際機関・ネットワーク、海外有識者・実務担当者等

グローバルアドバイザーパネル企画座長 (Co-Chairs, Global Advisory Panel Planning Committee)

- ・ UntroD Capital Japan株式会社 藤井 昭剛 ヴィルヘルム氏
- ・ GLIN Impact Capital 中村 将人氏

オーガナジングデスク

GSG Impact JAPAN

- 分科会等に対し、国際的・専門的知見に基づくアドバイスを提供し、関係者の意見収集を踏まえた多様な目線で議論を喚起

事務局 業務委託先

合同会社デロイトトーマツ

- 分科会を含むコンソーシアム全体について、会議運営、イベント運営、ホームページ作成等を担う

1. 開会

(承認事項)

2. 総会決議案 (別紙参照)

【10分】

(報告事項)

3. 今期成果及び来期計画

【各10分 (計70分)】

- ◆ コンソーシアム全体 (事務局)
- ◆ 分科会 (座長・副座長)
- ◆ 国際的な議論との連携・海外への発信 (グローバルアドバイザーパネル)
- ◆ インパクト投資の認知・理解の更なる向上に向けた勉強会 (オーガナイズングデスク)

4. 意見交換

【40分】

5. 閉会

次第

1. 開会

(承認事項)

2. 総会決議案 (別紙参照)

【10分】

(報告事項)

3. 今期成果及び来期計画

【各10分 (計70分)】

- ◆ コンソーシアム全体 (事務局)
- ◆ 分科会 (座長・副座長)
- ◆ 国際的な議論との連携・海外への発信 (グローバルアドバイザーパネル)
- ◆ インパクト投資の認知・理解の更なる向上に向けた勉強会 (オーガナイズングデスク)

4. 意見交換

【40分】

5. 閉会

会員の状況

- インパクトコンソーシアムの会員数は、今期は54増加し、472（議決権を持つ法人会員は392）となった。
- 今期会員は、主に事業会社や個人が増加しており、引き続き増加傾向にある。

会員の状況

カテゴリ	具体例	2025年6月末 時点	2026年5月末 時点	増加
事業会社	(スタートアップや地域企業、上場企業等)	131	157	26
金融機関等	(銀行、保険会社、証券会社、資産運用会社等)	109	113	4
支援機関等	(シンクタンク、財団、非営利活動法人等)	80	82	2
業界団体・協議会 等	(経済団体、証券団体等)	17	19	2
その他 (自治体・大学 等)	(市役所、学校法人等)	17	21	4
個人		64	80	16
合計		418	472	54

開催実績

- インパクトコンソーシアム第2期は以下のとおり各種会議を開催。
- 第3回総会は書面開催を予定。その後、分科会の成果物等を広く周知する成果報告会に加え、パネルディスカッション・ネットワーキングも行う「インパクトコンソーシアム in person 2026」を開催予定。

		2025						2026						
		7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	
総会													第3回	
運営委員会		第7回											第8回 6/11	
グローバルアドバイザリーパネル													第2回	
勉強会						第1回		第2回		第3回		第4回		
分科会	データ・指標	第1回			第2回		第3回		第4回					
	市場調査・形成	第1回				第2回		第3回		第4回				
	地域・実践	第1回				第2回		第3回 FW		第4回				
	官民連携促進	第1回						第2回						

今期の取組

- 参加者の負担や分科会間の重複も考慮した効果的・効率的な運営に留意しつつ、インパクトを創出する企業・投資家等の担い手の更なる拡大や、民間のイニシアティブとも連携した海外への発信を図った。

今期の方針

今期の取組

1

インパクトの担い手の
裾野拡大

- 会員以外も参加できる会を開催する等、更なる関心喚起や周知活動を行うとともに、コンソーシアムに参加して間もない層や、取組を始めたばかりの層に対する勉強会を開催する等、事業や投資の実践に繋がられるような取組を行う。

- インパクトに関する基礎知識を共有し、多様なステークホルダーが共に理解を深めることを目的とした、会員以外も参加できる勉強会（全4回）を開催し、実践に向けた第一歩となるような取組を行った。

2

効果的・効率的な
運営

- 4分科会体制を維持しつつ、アンケート調査を継続的に実施し、調査結果を踏まえて会員が参加しやすい工夫を行うとともに、より効果的・効率的な運営を行う観点から、事務局とオーガナイズングデスクの更なる連携・協働の推進を図る。

- 4分科会体制を維持し、アンケート調査の結果を踏まえ、発表内容のレベル感やディスカッションの時間を調整する等、会員が参加しやすい工夫を行うとともに、各種運営・企画等において、事務局とオーガナイズングデスクの連携・協働を図った。

3

民間のイニシアティブと
の連携と
海外への発信・貢献

- 関連イニシアティブと連携したイベントや、グローバルアドバイザリーパネルの開催等を通じ、コンソーシアムの取組を海外に発信するとともに、国際的な議論にも貢献する。

- グローバルアドバイザリーパネルを開催し、システムチェンジ投資を実践する海外での先行事例を通じて、国際的な動向等に対する理解を深めるとともに、コンソーシアムを含めた国内取組も海外へ発信することで、国際的な議論に貢献した。

今後のスケジュール

● 6月11日（木）第8回運営委員会

● 6月12日（金）～6月18日（木）第3回総会（書面開催）

- ・ 法人会員による議決権行使後、第9回運営委員会で結果を報告

● 6月19日（金）インパクトコンソーシアム in person 2026

- ・ 成果報告会に加え、パネルディスカッション・パネル展示・ネットワーキングも実施

● 6月29日（月）～

- ・ 来期のディスカッションメンバー公募

● 9月頃（予定）第9回運営委員会

- ・ 来期の分科会体制、活動計画等の報告

インパクトコンソーシアム 各分科会の今期成果と来期方向性（案）

1. データ・指標分科会

テーマ：インパクト企業及び投資家がインパクトの測定・管理に活用できる実践的なデータ・指標の整備のあり方

〔今期の成果物の内容〕

- 「望ましいデータベースの基本的な考え方」に沿った**インパクト・データベースの案内板（試行版）の実装・展開**
- インパクト創出を意図する企業・投資家において**関心の高い3分野（※）の「インパクト指標集」・「事例集」の整理**
（※）環境・エネルギー、健康・ヘルスケア、インフラ・不動産

〔来期の方向性〕

- 「インパクト指標集」の充実、**ロジックモデル構築に資する実証事業**、インパクトの可視化と経済的価値の関連性に係る議論

2. 市場調査・形成分科会

テーマ：特に投資実務が定まっていないとされる上場企業へのインパクト投資手法のあり方

〔今期の成果物の内容〕

- 企業・投資家による**インパクト測定・管理**の活用事例の整理
- 企業の価値創造ストーリーへの統合**の事例と、企業・投資家双方が期待するインパクトの開示・対話の実践
- 複雑な社会・環境課題を生み出している**システムの解決に向けたインベストメントチェーンの主体間の協働**のあり方の紹介

〔来期の方向性〕

- 市場形成に向け、**インパクトの創出を長期的な価値創造に接続する企業戦略や資本市場の機能のあり方**について機関投資家や金融機関・企業等の各ステークホルダーの観点から議論する

3. 地域・実践分科会

テーマ：地域のインパクト企業・金融機関等のケーススタディやフィールドワークを通じた、地域におけるインパクト投資の機運醸成・裾野拡大のあり方

〔今期の成果物の内容〕

- 地域におけるインパクト投資に係るファイナンス手法**の事例共有・議論
- 地域でのインパクト投資事例をまとめた**事例集**の作成

〔来期の方向性〕

- 事例集の普及活動**を通じて、地域での事例拡大に取り組む
- より実践的な目線から**有用な事例を深掘り**する

4. 官民連携促進分科会

テーマ：地方自治体とインパクトスタートアップの連携による社会課題の解決の促進に向けた課題の構造化や課題解決の方向性と手法の検討

〔今期の成果物の内容〕

- 自治体・スタートアップのほか、ファンドや中間支援団体を交えた**官民連携促進に向けた課題・解決策**等の整理
- 「実践ガイド」の活用促進**及び議論を踏まえた**一部改訂**

〔来期の方向性〕

- 「実践ガイド」を活用した**自治体とスタートアップの連携事例創出**

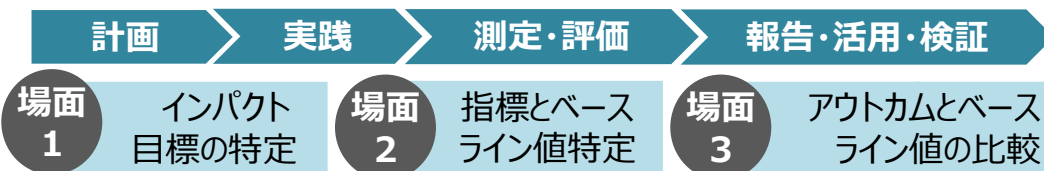
分科会 1 データ・指標分科会 これまでの取組

- 第1期では、インパクト創出・拡大に向けては、インパクト指標・ベースライン値・活用事例等が必要であるとの認識から、各場面に応じた、**各種の代表的なデータベース情報を集約・整理して**提示。あわせて、企業・投資家等の**関心が高い課題分野を特定したうえで（インフラ、環境、ヘルスケア）**、今後、整備が求められる**データベースにおける基本的な考え方を整理**
- 第2期では、「望ましいデータベースの基本的な考え方」に沿って、**インパクト・データベースの案内板（試行版）の実装・展開**を行うとともに、**重点3分野の「インパクト指標集」を策定するとともに、活用の際に参考となる「事例集」を整備**することにより、インパクト創出の実践を下支えするとともに、将来的なインパクト目標・指標の検討時における基盤を提示

データ・指標を活用する主な場面を踏まえた既存データベースの整理

企業・投資家等の関心が高い課題分野の特定

2024 (第1期)



環境・エネルギー

ヘルスケア・健康

インフラ・不動産

望ましいデータベースの基本的な考え方（コンセプト）

各種の代表的なデータベース情報を集約

19の指標例・ガイダンス等

22の統計・調査結果等

1 「インパクトデータベースの案内板」としての役割

2 代表的な指標・ベースライン値・活用事例の整理

観点

日本の課題としての重要性
国際的な整合性
企業価値との関係性

具体化

インパクト・データベース案内板（試行版）の実装

具体化

データ・指標イメージ（指標集）の検討

実装



各種指標・統計・調査結果

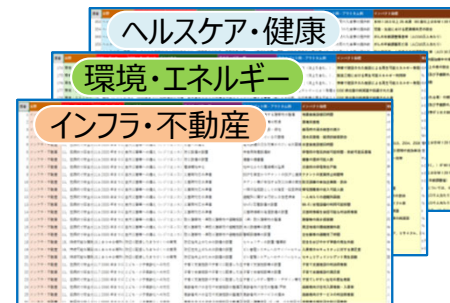
関係省庁発行のインパクト創出・投資に関する情報

環境・エネルギー

インフラ・不動産

ヘルスケア・健康

インパクト指標集



DM事例集



2025 (第2期)

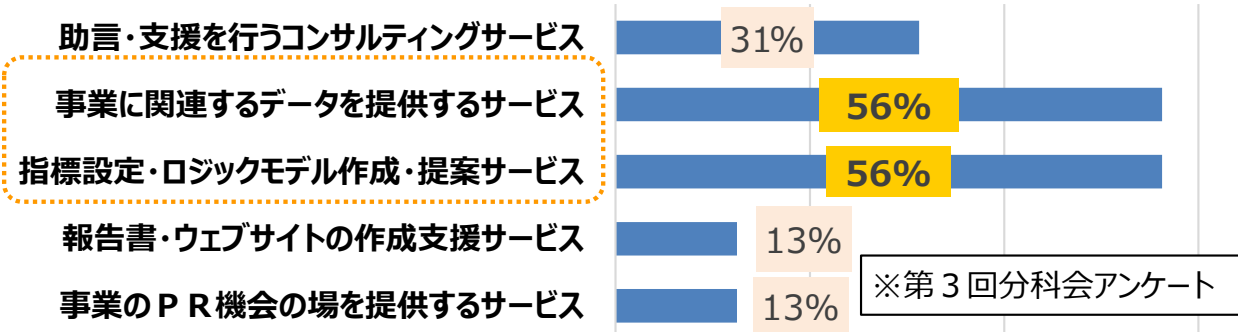
分科会 1 データ・指標分科会 来期の方向性（案）

- 分科会における議論のレベル感に対して、ESG業務に従事して1年未満の会員は「（とても）難しい」とする意見が66.7%に上っており、**インパクト創出のすそ野拡大に向けて、幅広い層が受容しうる議論の進行が必要**。また、事業者・投資家の多くは、データ提供・ロジックモデル作成等の**PDCAにおける初期部分における作業に対する支援を求めている**状況
- これらを鑑みて、第3期ではインパクト特定・測定・管理プロセスのうち、事業者の計画段階に対するプロセスへの支援として、**インパクト指標集の充実やインパクト・パスウェイ（ロジックモデル）の構築**に資する議論・実証事業を進める方向

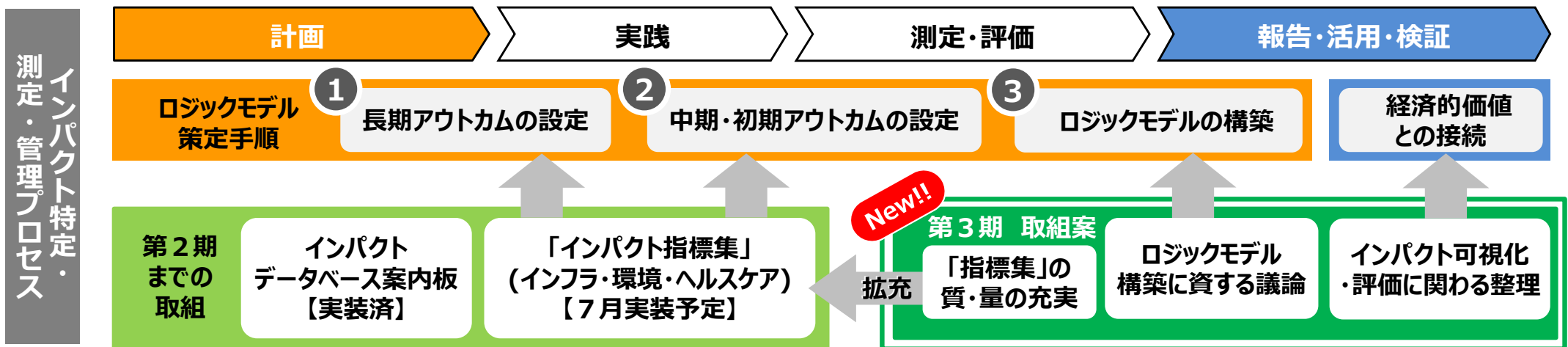
分科会における議論のレベル感

分科会の議論のレベル感 ※第2回分科会アンケート	とても簡単 ～簡単	適切	難しい～ とても難しい
会員回答	10.5%	68.4%	21.1%
うちESG従事1年未満	-	33.3%	66.7%

インパクトPDCAの実践において望まれる外部サービス



第3期分科会において議論・整理したい分野



分科会 1 データ・指標分科会 来期の方向性（案）

来期の活動と成果のイメージ

1

インパクト指標集 の質・量の充実

- より多くの事業者・投資家によるインパクト創出・投資に寄与するべく、第2期に提示したインパクト指標集【インフラ・不動産、環境・エネルギー、ヘルスケア・健康】における、収集分野・項目数の拡充や、利用に関するユーザビリティの向上を行う

2

ロジックモデル策定を支援 するための議論・整理、 及び、有効な手法の検討

- インパクト創出の担い手となる事業者・投資家のすそ野を拡大するとともに、IMMの初期プロセスで困難を感じる事業者へのサポートを行うべく、ロジックモデルの策定に資する実証事業を行うとともに、先行事業者によるインパクトPDCAの考え方に関わる議論・整理や、モデル構築に関わる有効な手法を検討する

3

インパクトの可視化と 経済的価値の関連性 に係る議論・整理

- 創出されたインパクトの可視化・評価を通じて、インパクトの創出がどのようにして経済的価値を向上させるドライバーとして位置付けることができるかに関するアプローチ・方法論について議論・整理

- 開催形式は原則オンライン、1回につき2時間程度で、2027年3月までに4回程度の開催を予定（変更の可能性あり）
- 別途、分科会と異なる形式で、新しい分野における先行事業者、海外データ提供機関等をプレゼンターとする会も予定

各回の対象課題・議論の目的

第1回 インパクト創出と投資収益の両立の健全な循環に向けた知見の共有

【議論の目的】

IMMのフレームワークを理解し、主に海外におけるIMMの事例の研究を通じて、その活用について共通認識を持つ。

第2回・第3回 インパクトの価値創造ストーリーへの統合・企業と投資家との対話の創意工夫

【議論の目的】

インパクトを環境・社会システム全体への影響と捉えた上で、リスク・機会の両面で価値創造ストーリーに統合することや、企業・投資家双方が期待するインパクトの開示・対話の実践に繋げる。

第4回 システム的思考と協働

【議論の目的】

アセットオーナー・アセットマネージャーなどのステークホルダー間の協働事例を踏まえ、複雑な社会・環境課題を生み出している構造（システム）の解決に向けたインベストメントチェーンの主体間の協働の重要性やあり方について理解する。

議論を通じた学び

- 企業主体でのIMM活用は型に拘る必要はない。インパクト測定の目的は、**資金提供者への報告に加え、事業の改善のために活用する動きも出てきている**。後者を目的としたIMMの中でも、**目標に向けた進捗を確認し対策を検討する診断的なもの**から、**プロダクトの改善やイノベーションへの示唆を探索するもの**へと広がりを見せている。
- 投資家は、IMMを**自社の投資やエンゲージメントの効果を確認するためのツール**として活用すべき。インパクトの創出×独自の強み×収益の創出の関連性の検証はエンゲージメントポイントを見つける作業でもある。
- 上場株式（セカンダリー市場）への投資であっても、**エンゲージメント活動の詳細な記録と達成された成果との関連性を見出す**ことで投資家による貢献を示すことは可能。
- 投資家は**伴走支援者**として、企業が主体的にIMMを推進できるよう、**リソース配分や実行可能性に配慮した対話、企業と投資家間の明確な目標・マインド設定**が不可欠。IPOを目指すスタートアップ企業の場合は特に、**国内外の上場株式投資家との対話の場を早期に設定**することで、IPOを見据えた**経営者の視座向上へ繋げる**ことが可能。
- インパクトが企業の成長の源泉となり中長期的財務価値へ還元される**一連の繋がりを可視化することで、**経営陣は自社の意思決定や方向性を検証して軌道修正**ができ、投資家はインパクトを勘案した企業評価を行い得る。IMMとロジックモデルはその有用なツール。
- インパクトKPIが事業KPIを通じて最終的に企業価値に反映**されていく仕組みが重要。多角的事業を営む企業では、**事業同士のインパクトの繋がりが見えるようなロジックモデルも有益**。インパクトの可視化は、**社会課題解決に資する事業に対する理解を深め、従業員を中心としたステークホルダーにおける企業・事業へのエンゲージメント強化**にも寄与する。特に社会インパクトについては**受益者を明確化**することが、そのIMM実施において重要。
- サステナビリティ情報と財務情報の関係を見える化するには、**社会価値を経済価値に同期化させる仮説の検証、経済価値の先行指標となるKPIの探索、価値創造の源泉となる資本への投資・開示**が重要。
- システム変革**には、既存事業に限らない**新たなイノベーションやビジネスモデル、俯瞰的視点が必要**であり、投資先の選定にあたっては、インパクトと財務リタンの両立を実現するための**目利き力が重要**。
- システムチェンジ投資は、多様な**ステークホルダー間の連携を通じた根本的・構造的な社会課題の解決に繋がる協働的な各立場からの行動の実践（βの追求）**に加え、事業を通じて解決すべき課題を深掘りすることで、**エンゲージメントの質の向上や分析力・目利き力の向上（αの追求）**も期待できるという点で、そうした取組に係るコストは**総需要の拡大に向けた先行投資**の側面もある。
- システムチェンジを意図して企業を支援する場合、特にファーストムーバーとして市場形成をしようとする企業に対しては、**初期段階から資金提供側を含めた他の主体との連携・巻き込み**が必要不可欠。

分科会 2 市場調査・形成分科会 これまでの取組

第2期の議論において提示された課題など

【投資家によるIMM】

- 様々なポートフォリオを有する投資家によるIMMでは、**単一のインパクト目標を設定することが難しく**、創意工夫（例えば、企業・インパクトKPI毎の目標に対する達成率の加重平均値を活用する等）が必要。様々なファンドに投資する**アセットオーナーレベルのIMM**についても同様。

【未上場から上場への接続】

- クロスオーバー投資におけるインパクト投資を進めていく上では、**未上場と上場におけるバリュエーションの違いを乗り越える手法や、インパクト評価を時価総額に反映させる手法**の確立、早期から機関投資家を巻き込むことによる**個人投資家中心の株主構成からの移行**などが課題。

【投資家と企業との対話】

- 企業の**インパクトに関する情報は未開示または分散**しているケースも多いほか、**投資家との限られた対話時間の中で論点が不明確**になりやすく、事業KPIや足元の事業状況に関する議論が中心になりがち。また、事業の継続・拡大という命題を抱えるスタートアップ企業においては、**短期的な成果や資金調達に繋がりにくいIMM**に持続的にリソースを配分することは困難。
- **投資家側としてエンゲージメントで何を重要視しているか**を予め示したうえで意見交換を行う必要があるほか、インパクト評価においてIMM・ロジックモデルは有用であるものの、**インパクトに関する定量データを将来の企業価値評価にどのように活用するか**という方法論については引き続き検討が求められる。

【システムチェンジ】

- システムチェンジ投資では、**受託者責任の観点での説明の難しさ、成果発現までの時間の長さや測定**の難しさなどが課題。また、複数組織での連携が不可欠であり、投資家には、投資先の選定にあたっての**目利き力**はもちろんのこと、**多様なステークホルダーとの協働**が問われている。
- システムチェンジをもたらすような技術は、**テスト段階から本格利用に至るまでの期間が長い**という課題があることから、その橋渡しとなるような需要側へのファイナンスが求められている。

今後の分科会の活動に対する期待など

- 海外の具体的事例の共有、グローバルでのインパクト投資に関する定期的な情報アップデートは参考になる。
- 上場前後から市場とうまく対話できた企業、そうでなかった企業を類型化してケーススタディとしてその要因や背景等を特定していくことが有益ではないか。
- 企業と投資家の対話のあり方を深掘りする観点から、定性・定量情報を含めて流れを整理したサマリーなど、対話に役立つツールの作成について議論できるとよい。
- 市場調査・形成分科会とデータ・指標分科会を横断してインパクトを企業価値や企業経営とどのように接続するかを議論できると有益か。
- 社会システムにおいて大きな役割を担っている大企業だけでなく、特定領域に特化するスタートアップにとってのシステムチェンジの捉え方やアプローチについても考えていけるとよい。エクイティ/デットの二分論ではなく、企業/スタートアップ側のニーズも踏まえつつ、様々な資金の出し手の連携・協働について議論してはどうか。

来期の議論の方向性

1

インパクトと企業経営・企業価値

- IMMを単なる測定・管理手法としてではなく、**インパクト創出と企業価値創造に向けた企業経営戦略・ガバナンス等に組み込む**ことについて議論。また、**企業価値とインパクトの接続に資する指標・データの活用のあり方**について、データ・指標分科会と協働。

2

インパクトと金融・資本市場

- 機関投資家や金融機関等の観点から、**インパクトを考慮した長期的な価値創造をどのように評価し投資判断に組み込むか**、受託者責任との関係を踏まえながら議論。

3

システムチェンジ投資と市場形成

- 国内外の実践事例を踏まえつつ、**多様なステークホルダーが協働してシステムレベルの変化を創出する方法論**を議論。また、ブレンデッドファイナンス等も含め、市場形成に向けた**多様な資本や制度の活用のあり方**について理解を深める。

4

インパクト資本市場のデザイン

- 資本市場において、**インパクトと長期的な価値創造の関連性を適切に認識・評価**する上で**重要となる仕組み**（インパクトの開示、共通言語の形成、価値創造ストーリーへのインパクトの組み込み等）について議論。

分科会3 地域・実践分科会 これまでの取組

課題・目的

- 地域に潜在的に存在する環境・社会的又は人的資源を活用し、**地域発で社会・環境課題に対応し、経済・社会基盤の強化を実現することへの期待は高く**、実際に、足許で多様な地域企業によるインパクトの創出例が見られつつある。一方、**様々な経営・資本戦略等のノウハウの不足がネックとなる**など、**地域発の取組みの実践は容易でない**。第1期においては地域でインパクトを意識する必要性の共通認識を醸成し、事例を通じて得られた示唆を発信した。
- 第2期においては、**地域における資金の出し手が採りうる手段(How)を深掘り**することを方針として定め、企業の成長段階に応じた多様な資金提供者の協働、多様なファイナンス手法の活用に係る議論にフォーカスした。議論を通じて得られた示唆と合わせて全国の**インパクト投資（ファイナンス含む）事例を収集・一覧化**し、成果物として取りまとめることとした。

主な論点・議論内容

- 有用な成果物の構成/考え方について議論するとともに、地域における資金の出し手が面となりアプローチすることでインパクトを創出する事例について以下のテーマを設定し、整理・分析を行った

ブレンデッドファイナンス

得られた示唆

- ✓ 公的資金やリスク許容度の高い資金と民間資金を組み合わせ、民間金融が適切なリスク・リターンでインパクト創出に参入できるようにする「広義のブレンデッドファイナンス」について整理
- ✓ 個別の手法を点として提示するのではなく、課題の段階や展開に応じて「セット設計」する視点の重要性を整理

ギャップと束

得られた示唆

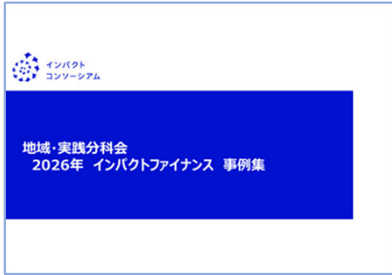
- ✓ 地域の課題構造を踏まえてインパクトファイナンスを検討するプロセスがなぜ有用であるかについて、具体的な事例を交えて共通理解を醸成
- ✓ 成長ステージ毎に存在する資金供給ギャップと、資金の出し手が地域内で連続的に連携することによりギャップの解消が図られている構造を分析

地域エコシステムの構築

得られた示唆

- ✓ 資金の出し手の面的なアプローチについて、沖縄地域において構築されている様々なステークホルダーの先進的な取組現場を視察
- ✓ 地域特有の課題に対して、地域がエコシステムレベルで有機的に連携している事例を体感することを通して、横展開に向けた気づきを得た

分科会3 地域・実践分科会 これまでの取組



成果物概要

- ✓ 分科会での事例紹介と議論を通じて、地域を面的に捉えて資金の出し手間の連携が実施されることの効果の構造と有用性について可視化
- ✓ 全国各地で実践されてきた様々な地域課題解決に資するファイナンス事例を体系的に整理し、地域での実際の検討場面を念頭において活用しやすい構成とした

分科会から得られた示唆

1 リスク許容度の不整合

- 公的資金・フィランソロピー資金・銀行・信用金庫・VCといった資金の出し手の属性ごとにも、許容できるリターン属性や目標リターンが異なる。
- 明確な階層設計がなければ、協調融資は成立しにくい。

2 成長段階の不連続（ギャップ）

- 成熟段階等によって提供される資金も異なり、各境界が案件の死亡点になり得る。
- スケール期の境界にシーケンスがなければ、アーリー段階において資金が提供されたとしても資金は単発で途切れてしまう。

3 エコシステム（束）視点の未構築

- 個社対応ではなく「面」の単位で支援する取組が必要。
- 金融・非金融の支援を統合的に設計する。

4 指揮者（オーケストレーター）の不在

- 資金の出し手が連携してファイナンスを実行するには、資金提供者と商品を課題段階に応じて組み合わせ、各ステークホルダーを取りまとめ、共通認識を醸成するオーケストレーターの存在が重要であり、地域金融機関への役割期待は大きい

事例集の活用

- マッピングにより【社会課題】と【ファイナンス手法】【成長ステージ】の切り口で関心事例を効率的に検索できる設計とした

事例集に織り込み
得られた示唆を

Step1
事例Noの抽出

Step2
事例概要の把握

Step3
事例内容の理解の深化

現状・課題

- 第1期においては、地域におけるインパクトは多様であることから、なぜインパクトを意識することが有用であるかについて共通の認識を持つことを目的に、多様な地域発のインパクトについて、ケーススタディやフィールドワークでの議論を通じ、**地域内外の幅広い関係者間で共通理解を醸成し共感・協働を得る方法論や、インパクトを事業評価に加味する視点、複層的なファイナンスのあり方**等に関して整理し、報告書として整理した。
- 第2期においては**全国各地で実践されてきた様々な地域課題解決に資するファイナンス事例を体系的に整理**することができた。またその中で、**地域を面的に捉えて資金の出し手間の連携**が実施されるべきことの構造と有用性についても可視化することができ、**活用場面を念頭においた有用な「事例集」を発刊**することができた。
- しかしながら、**「事例集」については読み手によって活用方法は多様**であることから、発刊自体をゴールと捉えず、**普及活動**を経てフィードバックを獲得し、バージョンアップに繋げることが重要であると考えられる。
- また、「事例集」を通じて地域におけるインパクトファイナンス事例の整理に取り組んだ一方、急速な変化に晒される地域の持続可能性を確保するには、地域のインパクト企業が従来以上のスピードでファイナンスを通じて事業拡大、地域活性化を実現する必要がある。このため、単純に過去の事例を紐づけるのみでなく、資金の受け手・出し手の双方向の**実践的な金融アプローチについても深掘り**し、体系化することが重要である。

来期の活動と成果のイメージ

- 資金の出し手に引き続き特にフォーカスし、**より実践的な目線で、有用な地域のインパクトファイナンス事例の研究や最新の動向の把握**を行う
- 事例集の**普及活動を通じて、地域でのインパクトファイナンス事例の拡大**に取り組む
- 今期同様**フィールドワークを実施**し、地域のインパクト・ビジネスの実態把握を行う (**生の声を聴く**)

分科会 4 官民連携促進分科会 これまでの取組

課題・目的

- 社会課題が多様化する中で、**国や自治体等の行政組織が民間事業者と連携し、その課題解決にあたる必要性**が増している。特に、**自治体と地域の社会課題解決を目指すインパクトスタートアップとの連携促進**が求められている。
- 他方、**官民連携に際しては、行政組織側、スタートアップ側のそれぞれに課題が存在して、双方の課題の把握と解消に向けた取組みが必要**である。
- 第1期に作成した「実践ガイド」をベースに、官民連携により社会課題を解決していく機運醸成と、分科会自体が官民連携に関する情報と興味を持つ人が集まる場として機能することで官民連携の促進に寄与する。

主な論点・議論内容

- 官民連携の実践に際して、**行政組織側とスタートアップ側が抱える課題を提示し、実際に官民連携を行っている先行プレイヤーのベストプラクティス**を踏まえつつ、**課題解消策に関して議論**を行った。（下記が課題例）
 - 自治体内でスタートアップ活用に関して、**経済政策担当課と社会政策担当課の間にマインドセットやコミットメントのギャップ**がある。
 - スタートアップがスケールアップするために、**一定の市場規模を確保**する必要があり、官民連携の**横展開や共同調達による規模の拡大**が求められる。等
- **自治体が抱える社会課題解決とスタートアップの成長を両立する官民連携事例の創出・促進**のため、先行事例や各関係者からの意見・情報を収集し、具体的なアクションを整理する必要がある。

成果物の概略

- 分科会での議論や自治体・スタートアップに向けたアンケート及びヒアリングによる調査の結果等を踏まえて、先行プレイヤーの事例発信と官民連携の更なる事例創出に向け、自治体・スタートアップが参照可能な**事例及びプラットフォームを「実践ガイド」に追記**する。
- 官民連携の機運醸成に向け、**セミナーへの登壇など、「実践ガイド」の活用促進**を実施。

分科会 4 官民連携促進分科会 これまでの取組

成果物の概要

下記の点に着目して、官民連携を実践する際に**参照・活用可能な事例及びプラットフォーム**を追記

- ✓ スタートアップの公共調達参入を促すため、共同調達やトライアル発注及びソリューションの横展開に資する制度活用を促す
- ✓ 意欲ある自治体・スタートアップが実際に官民連携に向けて出会うことができる場を示す

「自治体と地域課題解決に取り組むスタートアップの官民連携に向けた実践ガイド」の更新点

アップデート内容

アップデート箇所



本編 (約140頁)

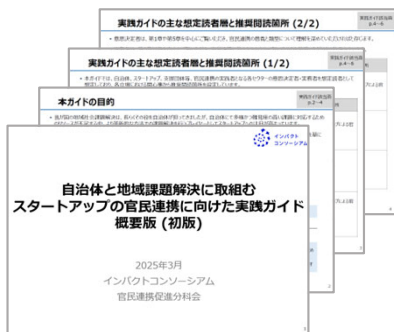
共同調達・ トライアル発注

- 共同調達・トライアル発注に関する調査結果**
- ・事務局が自治体 (n=256) へ実施した調査から一部を掲載し、各制度への認知・プロセス・導入や運用上の課題について提示

**トライアル発注事例：茨城県
(茨城ベンチャートライアル優良商品等創出事業者認定制度)**

- ・地元経済団体と連携してスタートアップの製品等を調達し育成する共創的コンセプトのもとで実施する事例

- <第5章 官民連携編>
- ・ 概要版P24
 - ・ 本編P100-102、P105-107



概要版 (約30頁)

自治体・ スタートアップの 出会いの場

- 地方創生SDGs官民連携プラットフォーム**
- ・内閣府において、SDGsを原動力として、より一層の地域課題の解決や地方創生につなげることを目的に、広範なステークホルダーとのマッチングを促進するための官民連携の場

デジタルマーケットプレイス(DMP)

- ・中小・スタートアップを含む事業者が、デジタル庁と基本契約を締結の上、カタログサイトにソフトウェア・サービスを掲載、各行政機関は本サイトで仕様に基づき検索・選定を行うことで迅速にSaaSを調達できる手法

- <第5章 官民連携編>
- ・ 概要版P28
 - ・ 本編P125

- <第5章 官民連携編>
- ・ 概要版P24
 - ・ 本編P92

現状・課題

- 「実践ガイド」により、これまでの連携を通じて洗練されてきた官民連携プロセス・ノウハウが整理・標準化されたため、今後はより多くの自治体・スタートアップにノウハウを共有し、具体的な事例を創出していくことが必要であることから、**分科会メンバーによる官民連携の事例やノウハウ・課題等の情報を集約し、情報発信**を行う。
- 加えて、経済産業省が「実践ガイド」を活用し、自治体とスタートアップの官民連携の事例創出を支援する事業を実施予定であり、当該事業において**経済産業省と連携して事例創出に取り組むとともに、事例・ノウハウに関する情報発信**等を行う。

来期の活動と成果のイメージ

実践ガイドの普及・拡大に向けた発信

より多くの自治体・スタートアップに官民連携の取組を広めていくため、実践ガイドの周知とそれによる事例創出及び実践ガイドのアップデートを行っていく

【対外発信・仲間づくり】

多様な組織をメンバーに引き入れながら、イベント等を通じて、**実践ガイドを発信**

【知の集積・研磨】

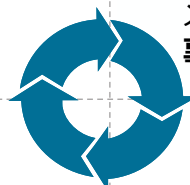
官民連携事例や関連する施策をベースに、**実践ガイド内の記載を見直しアップデート**

【実践・事例創出】

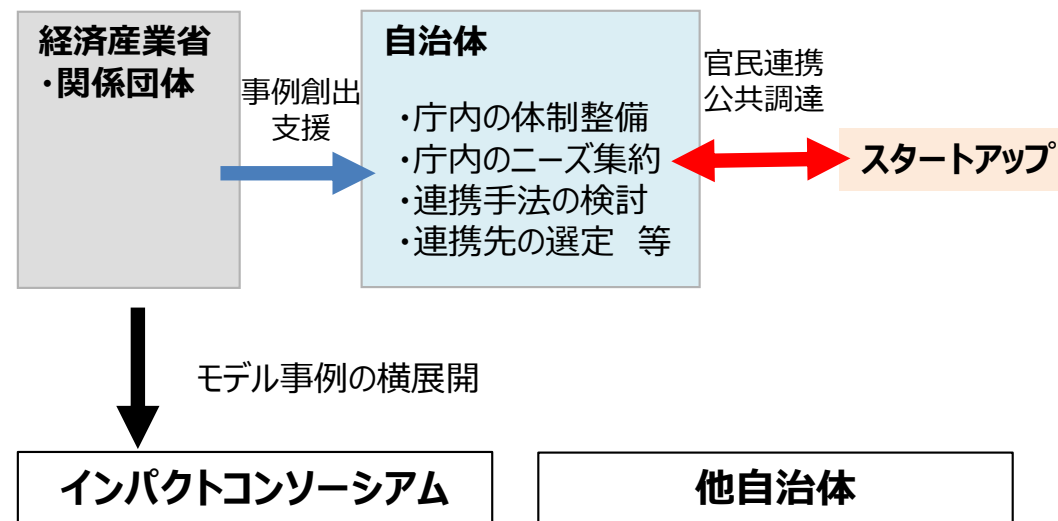
実践ガイドを活用することで、メンバーを中心に**官民連携事例を創出**

【情報収集】

官民連携に関する事例や、国全体としての官民連携に関する潮流や政策動向等の**情報を収集**する



自治体とスタートアップの連携・調達の促進のためのモデル事業（経済産業省）



国際的な議論との連携、海外への発信について

- ❑ 国際的な動向や他国における先進事例に対する理解を深めるため、グローバルアドバイザーパネル及びアドバイザー委員会が中心となり、各分科会の活動における関連企画の組み込み、国内外のインパクト関連団体と連携したイベントの開催などに取り組む。
- ❑ 2026年6月9日に第2回グローバルアドバイザーパネルを開催。海外有識者からグローバルレベルでの構造変革を目指す取組に関する先進事例の共有を受けるとともに、コンソーシアムの各分科会における動きを含めた国内におけるインパクトファイナンスの取組状況などを海外に発信し、海外有識者から国際的な動向を踏まえたフィードバックを得ることで、来期の方向性の検討に役立てる。

① 海外有識者からの知見共有、ネットワーキングの場の提供

- 各分科会の活動及びグローバルアドバイザーパネルにおける海外事例の紹介、海外投資家の登壇 (Baillie Gifford & Co、WHEB、Triple I S2G Investments、Zebras Unite)
- SIMIやGIINなど、国内外のインパクト関連団体と連携した共催イベントの開催

国際動向を踏まえた、コンソーシアムにおける議論の発展

日本と海外のプレイヤーの協働による案件の創出

② 日本の取組の海外への発信

- グローバルアドバイザーパネルにおける国内の取組状況の発信
- 各種メディアやイベント登壇等を通じた取組の紹介

インパクトファイナンスに関する国際的な議論への貢献

インパクト投資の認知・理解の更なる向上に向けた勉強会の実施結果

タイトル

「インパクト」の視点が広げる可能性 ～基礎から学べる、実践に向けた第一歩～

実施目的

- **コンソーシアムの議論や、インパクトに係る各社の取組の活性化**
インパクトのトレンドや用語等の基礎知識のインプットを通じた、コンソーシアム（特に分科会）の議論等への参加や、インパクトに係る各社の事業や投融資活動の促進
- **新規・既存会員の参画の促進**
コンソーシアム及び分科会の概要や参画のメリットに関する情報提供を通じた、コンソーシアムへの参加に対するハードルの解消（既存会員は離脱の回避）

主な対象者

- 会員：分科会の活動に関心があるものの、前提となる基礎知識が足りていないと感じている方々
- 非会員：地域金融機関や中小企業といった、全国の地方で活動している方々や、機関投資家や大企業などで、インパクト投資に一定の関心はあるものの、コンソーシアムへの入会に至っていない方々

第1回 オンライン

まずは知ってみる ～「聞いたことある」を「ちょっと分かる」に変える入門編～

【講義】

青柳 光昌 氏：インパクトコンソーシアム運営委員 等

【パネルディスカッション】

「今後のインパクトの可能性と各ステークホルダーの向き合い方」

- 青柳 光昌 氏：インパクトコンソーシアム 運営委員 等
- 坂東 眞理子 氏：学校法人昭和女子大学 総長
- 高橋 博之 氏：(株)雨風太陽 代表取締役社長

第2回 オンライン

資金提供者なら押さえておきたい、インパクトもリターンも見据えた基本姿勢と果たすべき役割

【講義】

黄 春梅 氏：インパクトコンソーシアム市場調査・形成分科会 副座長 等

【パネルディスカッション】

「インパクトファイナンスの担い手は誰か～地域課題解決の文脈で～」

- 安間 匡明 氏：インパクトコンソーシアム アドバイザリー委員会 委員長 等
- 堺 敦行 氏：南都キャピタル パートナース(株) 代表取締役社長
- 酒井 里奈 氏：(株)ファーマンステーション 代表取締役
- 野村 裕之 氏：(株)かんぼ生命保険 執行役 運用企画部長

第3回 ハイブリッド(対面:大阪商工会)

インパクトと企業経営の関係性～従来の経営からの延長線上にある“インパクト”とは～

【講義】

白石 智哉 氏：インパクトコンソーシアム市場調査・形成分科会 座長 等

【パネルディスカッション】

「インパクト経営における効果と重要な視点」

- 青柳 光昌 氏：インパクトコンソーシアム 運営委員 等
- 河村 晃平 氏：(株)クラダシ 代表取締役社長CEO
- 塩田 裕子 氏：(株)丸井グループ 執行役員・サステナビリティ部長・ESG推進部長・ビジネスプロデュース推進担当
- 松場 忠氏 氏：(株)石見銀山群言堂グループ 代表取締役社長

第4回 オンライン

次なる歩みへの展望 ～インパクトコンソーシアム分科会の軌跡と今後～

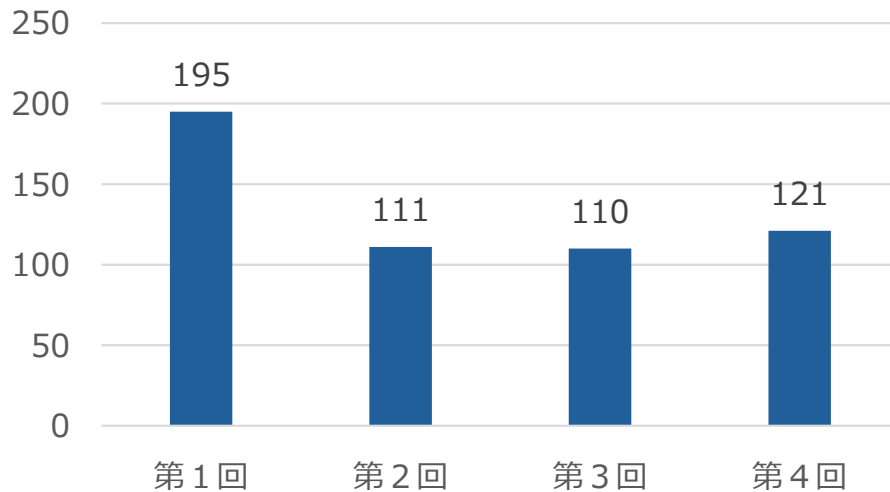
【インパクトコンソーシアム各分科会の取組発表及びパネルディスカッション】

- 青柳 光昌 氏：インパクトコンソーシアム 運営委員 等
- 今田 克司 氏：データ・指標分科会 座長 等
- 白石 智哉 氏：市場調査・形成分科会 座長 等
- 宜保 友理子 氏：地域・実践分科会 座長 等
- 工藤 七子 氏：地域・実践分科会 副座長 等
- 小池 克典 氏：官民連携促進分科会 等

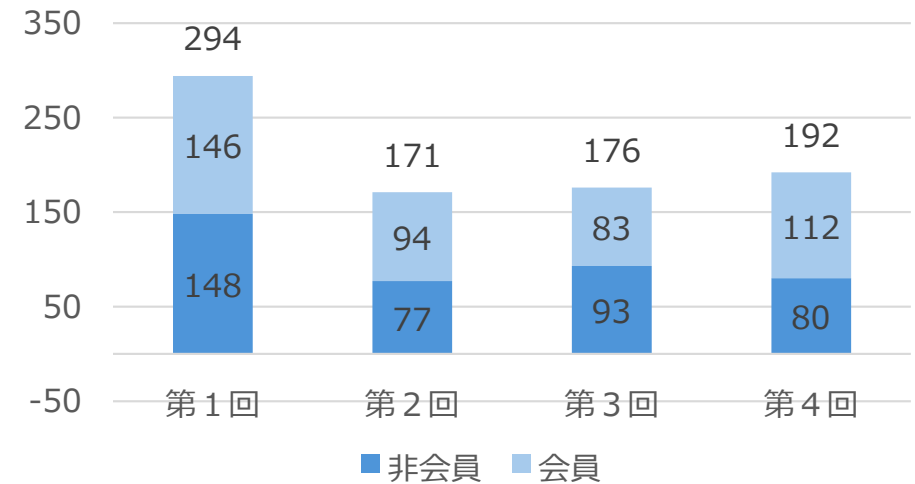
実施結果

勉強会各回のアンケート結果 参加者数・属性

当日の参加人数



参考) 申込者属性/会員・非会員 ※参加者属性はデータ無し



参考) 申込者属性/組織 ※参加者属性はデータ無し



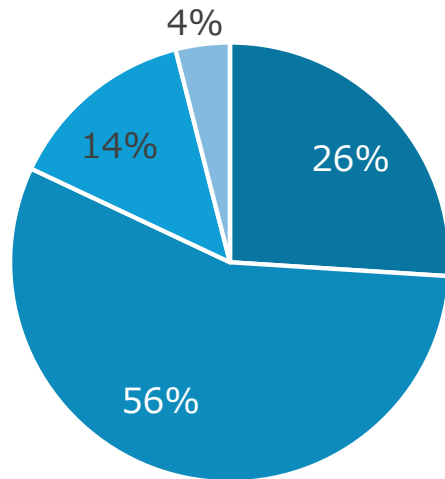
当日の様子 (第4回)

	第1回	第2回	第3回	第4回
上場企業 (以下の分類以外の事業会社様)	88	31	37	33
銀行	49	31	23	32
非上場企業 (以下の分類以外の事業会社様)	42	20	33	27
自治体	26	13	14	18
保険会社	20	7	9	13
非営利法人	21	18	17	16
業界団体・協議会	10	6	10	14
資産運用会社	10	17	6	11
支援機関	10	15	14	7
証券会社・信販会社	9	5	7	10
個人	6	4	4	6
大学	2	2	2	4
国際機関	1	2	0	1
合計	294	171	176	192

各回とも100名を越える参加者にご参加いただき、非会員・会員及び多様な属性の方々にご参加いただいた

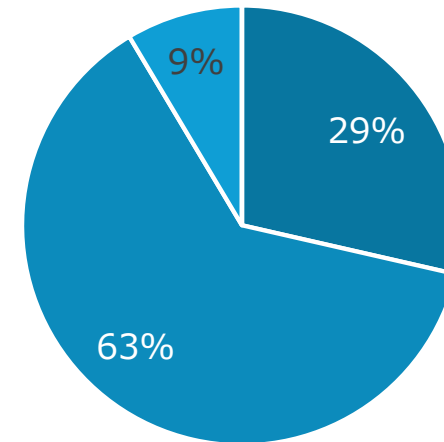
勉強会各回のアンケート結果 満足度

第1回



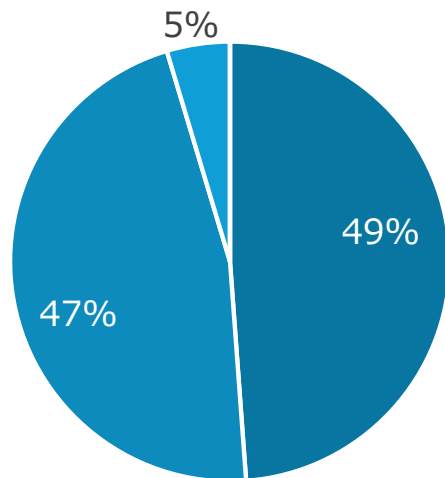
■とても満足 ■満足 ■どちらともいえない ■やや不満 ■不満

第2回



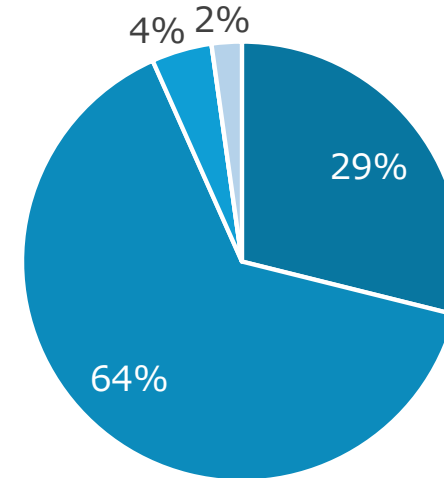
■とても満足 ■満足 ■どちらともいえない ■やや不満 ■不満

第3回



■とても満足 ■満足 ■どちらともいえない ■やや不満 ■不満

第4回

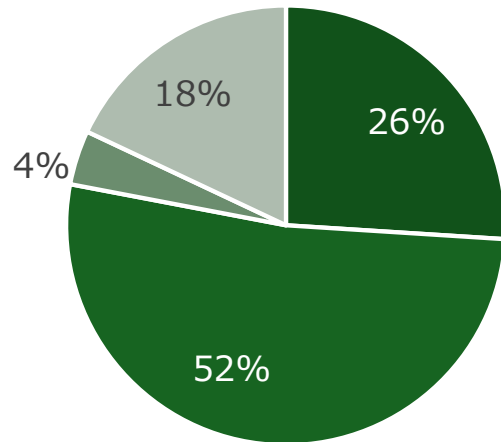


■とても満足 ■満足 ■どちらともいえない ■やや不満 ■不満

全ての回で「満足」「とても満足」と回答いただいた方が平均90%を越え、大変好評いただけた結果となった

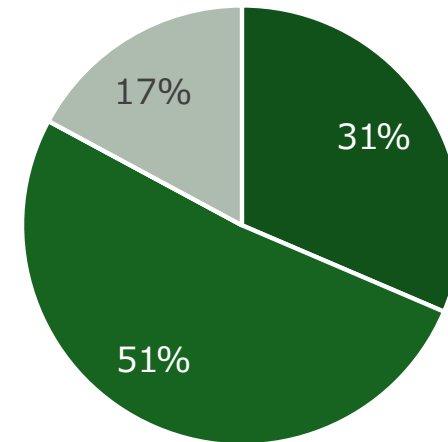
勉強会各回のアンケート結果 関心度の変化

第1回



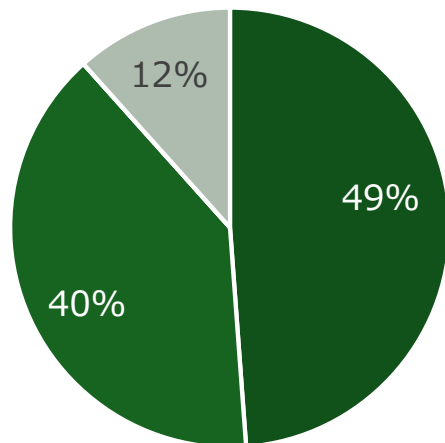
■とても高まった ■やや高まった ■やや低下した ■変わらない

第2回



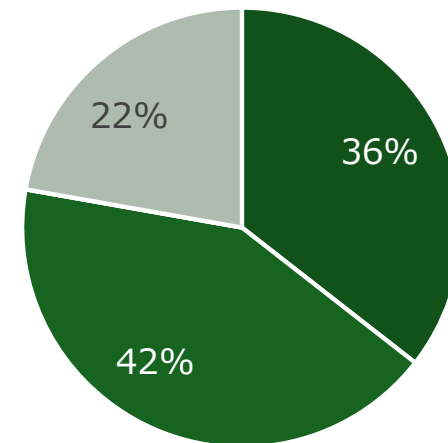
■とても高まった ■やや高まった ■やや低下した ■変わらない

第3回



■とても高まった ■やや高まった ■やや低下した ■変わらない

第4回



■とても高まった ■やや高まった ■やや低下した ■変わらない

いずれの回も平均80%を超える方々に「関心が高まった」と回答いただいた

勉強会各回のアンケート結果 今後取り上げてほしいトピック（一部）

- ナレッジの教材を使った学習機会
- IMMの具体的な実施方法（概念構造や実務のプロセス）や先行事例
- 社内でインパクトに取り組む際の「最初の一步」の進め方やプロセス
- 地域ごとのプレイヤーとの事例に関するディスカッション
- フィランソロピーや財団の役割・NPO/NGOによるインパクト投融資活用の可能性、企業との連携事例
- システムチェンジの実現に向けた、ステークホルダー別のアクション・手法の整理（産業別にテーマを仮設定した上でのIMMの実施等）
- データ指標の作成及び事業活動への活用方法（PDCAの回し方）
- インパクト評価と財務的評価の関係性
- インパクト評価手法及びエンゲージメント手法
- 中小規模の企業に対するインパクト投資を活用した資金調達のステップに関する論点整理（補助金→インパクト投資調達→上場の流れに沿って）
- グリーンファイナンスにおける実際の削減効果（インパクト）を評価・管理する手法

等 多数

インパクトに取り組むための「一步」を後押しする機会提供に関してのご希望を多くいただいた

勉強会の実施結果 サマリ

- 多くの非会員及び会員の方にご参加いただき、また全ての回においてご好評をいただいた。
また、実際に非会員の方より、「会員になった」というお声もいただき、インパクトコンソーシアムの会員数の増加にもつながった。
- インパクトコンソーシアムの関係者各位のご協力のもと、多くの非会員・会員の方に勉強会の案内を発信いただいた。
多方面への案内周知はインパクトコンソーシアムの認知度向上にもつながったことと推察される。
(案内周知にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。)
- 分科会座長・副座長やアドバイザー委員会等のインパクトコンソーシアム関係者及びインパクトに取り組む現場の方々にご登壇いただき、インパクトの創出に関わる多様なステークホルダーが一丸となって、その重要性を発信することができた。
- 第3回においては、日本商工会議所様・大阪商工会議所様のご協力のもと、地域での対面開催も行うことができ、ハイブリッド開催の端緒を構築するとともに、地域開催を通じた全国各地への普及啓発の必要性を感じた。
- アンケートを通じて参加者からの声を直接いただくことができ、今後、勉強会やイベント等を企画する際の参考となる現場の方々のニーズを伺えた。

インパクトコンソーシアムHP内「セミナー」上に、各回のアーカイブ（当日資料・動画）を掲載しておりますので、
もしよろしければ是非ご覧ください

<https://impact-consortium.fsa.go.jp/seminar>

1. 開会

(承認事項)

2. 総会決議案 (別紙参照)

【10分】

(報告事項)

3. 今期成果及び来期計画

【各10分 (計70分)】

- ◆ コンソーシアム全体 (事務局)
- ◆ 分科会 (座長・副座長)
- ◆ 国際的な議論との連携・海外への発信 (グローバルアドバイザーパネル)
- ◆ インパクト投資の認知・理解の更なる向上に向けた勉強会 (オーガナイズングデスク)

4. 意見交換

【40分】

5. 閉会

- **インパクトコンソーシアムの来期の全体方針の方向性として、どのようなことに注力していくことが考えられるか**

※ 今期の全体方針は、①インパクトの担い手の裾野拡大、②効果的・効率的な運営、③民間のイニシアティブとの連携と海外への発信・貢献の3つの柱を掲げていた。

- **インパクトの担い手の更なる裾野拡大に向けてどのような取組が考えられるか**
- **各分科会における第3期の進め方やテーマ、分科会間での連携や統合の可能性について**
- **その他自由討議**